

ロズバーク
日本人
收容所
知事局
五月十日
月曜日
才二八号

樞軸残兵半島に籠る

聯合軍の追撃を急ぐ

北阿聯合軍本營祭表に據れば樞軸軍切断に奏功せし英米佛聯合軍は迅速にキニス首府並にビサヤ軍港を占據した米軍は首府北方山岳に據り兵を調へてゐるが英軍は殊兵を首府南方十四哩地点まで追撃した樞軸軍はキャップボン半島へ籠つた捕虜多く彼我死傷者夥しといふ

米國空軍更に増加

今度はアール島爆撃

華府國際通信は米國アラスカ空軍の増強を報じ今までキスカ中心に攻勢をとつてゐたが今朝はアール島を爆撃した米國空軍の本據は最近解禁したアシカ島であつてキスカへ七十二哩アール島へ二百八十哩の距

離に在り回航爆撃に便である

高架索作戦事情

ノボロシス軍港危し

昨日のモスカウコムニニケは高架索戦況を露に利あるを報じクレーバシ流域の独逸兵はノボロシス軍港を除くの外は殆んど殲滅した今期接戦に於て独逸飛行機撃墜数は九百台に達した

フラツシエー東

□聯合軍戦果 別項アフリカ作戦で聯合軍は既に五方の捕虜を収容したが独逸将官三名が含まれてゐる

□パラモ爆撃 英米空軍は四百台で編成してシレリー島のパラモ軍港を爆撃した

□独逸バルカン警備 アンカラ登陸は独逸軍が陸続として希臘及ユーゴスラビア方面へ密集し始めた尚ほブルガリアは最近新兵兵器を独逸より輸入して黒海の防備を事としてゐるか一説には土耳其がブルガリアに宣戦せし結果であるといふ

□英国王より祝電 アフリカ聯合軍

司令官アイゼンハウワーに對し優渥なる英國王の感謝親電があつたが貴官の功によつて英國のタシカーク耻辱の仇を酬みおれしことを深謝すといふた

□ギゾー島の日米戦 ニエージヨール島島の心臓ギゾー島に屯する日本船艦を空襲して駆逐艦二隻の甲板へ真面に投弾したが沈没せしや否やを見極めずと発表

□タキシエーの争議 エルバソ市のタキシエーは去る金曜日から管轄關係で瀕着を始めた今日は政府側で調停し始めたといふ

認識票紛失

レッドベター司令官が去る八月第二大隊ゲートより農園へ行く途中で認識票を落されたとのこと、お拾ひになつた方は知事局へお届け下さい

認識票紛失

認識票は銅とニッケルの合金で縦一時横半吋、姓名番號が刻まれていると

○手紙の申味が間違つて居る最近セロムセンターから来た手紙が修子嬢よりお父さんに発信したものが弟ニ大隊隊長の末岡氏の許へ届いてゐるこれはセンター局で末岡夫人からの手紙

と申味を間違へて入れたものらしいので心当りの人は岡氏と申味を交換されたい

尾之氏感謝寄附

一時重態のため危険なりと傳へられた第五中隊尾之氏金三門氏はドクターの懇切適宜の施療と友人並に隊員諸氏の骨肉も及ばぬ親切を快方に向ひ命拾ひをした感謝の爲め末大隊知事局へ金五奉記念寄附した

専会

今夕八時十中社交室にて「佛國口」の盧泉と宇藤女史の食道療法治の近代靴学」講師川島富之助

朗通

俳壇

（一行春）
その一

移動未完一句
行春や行きつとさね人の群 月樵
行春や浮屠用筆の指紋あと 紅雨
はかどらぬベンのかすれよ春情しむ 無理
行く春を日々にくえけり交鳥の群 青柳
行く春や南りはなしたる戸口より 千久石
行春や沙漠の空を眺めつゝ 如人
行春や黄鶯も高原に牛の声 一甫
面会も金網敷しよ春は逝く 許若
淫々花に別れぬ若春よ 許若
行春や此の獨みし細き道 殊若

第二次世界大戦よみ (二)

千九百四十二年四月十三日日本露国中立協約が成立し西国の署名が行はれた。

四月十九日より五月三十一日に涉り英國はイラクへ遠征軍を送り反乱軍を鎮壓した。

五月十日独逸副總統ヘッス英國へ飛行機で着陸。

六月一日英國クレト島を放棄する。

六月八日より七月十二日まで聯合軍シリヤを征服する。

六月二十二日ヒトラー露国攻撃を開始。

七月十百英露共同援助を折衝約する。

七月七日米露アイスランドを占領。

七月十三日日本は佛印を完全に掌握する。

八月十四日ロバート大統領領事ヨール首相のマトランシツク憲章八ヶ條が発表される。

八月二十八日より至九月十一日イラン軍は英米露聯合軍のため鎮定された。

当日口大統領は米露海軍に枢軸側の艦隊を見付け次第撃滅せよと命令を發す。

十月十六日より二十日まで獨軍オデッサを攻撃陥落した一方獨軍はモスコの外の郊まで進撃し追うと傳へた此時オレルウヤズマブヤンスキカリンの各都市を獨軍席捲したので露国政府は各国外交團に東方へ新首府を移動する旨を通知した。

十月十七日日本近衛内閣桂冠し東條將軍を首相とする東條内閣が出現した

当日米露艦隊艦カーネー、千六百三十噸がアイスランド西南方三百五十哩の沖合に於て魚形水雷を發射され沈没した。

○赤大根收穫 コンニニニイ農園では先週三日五クレーツ五八兩日に各六クレーツ宛の赤大根を收穫した

知事局改選と共に本社部署如左決定
新聞部長 小 山 巖
編輯長 赤 堀 最
編輯記者 草尾雄五郎
顧問 阿部豊治
有馬純龍
笠井健治
相賀安太郎

○寄附 金巻市 合田一郎氏
全 全八十五仙 浦田良太郎氏
全 全二弗 西水 肇氏

○ピンポン堂の行方
第七中隊の食堂へ据付けてあったピンポン卓が最近行方不明になりました心あたりの方又は御使用中の方は其の旨を第一大隊厚生機関科までお知らせ下さい
第二大隊厚生機関科

誤れる祖先 (一五)
日系市民の二世と非市民の一世が今ミニドカぬかるみの中をこつたかへして居る。此のスカルミが普通のドコとは違つてゐるその色は黒くしかも深くその上吸ひ込む力を持つてゐる。ラバーニエースを穿く者は新参者だけである第一に此の恐ろしい事は余りに深いことであるが更に困つたことは此のどろが自然の膠着性を含んでゐる爲めニエース足歩るとラバーシューズは忽ちどろに取られてしまふ程ねばり

強いのであるからミニが移住者中には老幼男女を問はず特にラバーブーツやキヤロツシを買求めた者が澤山ある
どろは困つたものであるには違ひないがミニドカ移住者は雨が降らなれば乾き切つた面々の砂ほたりよりは余程よいと言つて居るオレゴン州のポートランドとワシントン州のワヤラツプ両アツセンブリーセンターからの列車が去年夏アイダホ州ハントに着いた時に彼等移住者は不毛にして石だらけでセービブララの野原を凝

つと見つけた。然かし眼に映る全ての景色は乾からびた野原で、グリーンの一點もも見出す事は出来なかつた。

彼等の第一歩は一時の層をなして粉のやうに細かく黄色いダストの中に踏み込んだ。その一足毎にダストは煙の如く噴き上がる。然して彼等のホームで外側がターペーパーで出来てゐるバ

ラツク建の敷多の遊技所は東西三哩に及んで居るがその上空には恰も之を包むか如く雲のやうなダストの煙が同じ込めぬ

る。そこで彼等は小切をしめて自棄と心を覆ふ事と覚へた。さうして彼等は一日中此の小切を繰り返して行く。

又彼等は食堂へ行くと時はテールの四にたまつてゐるダストを拭くみに紙を持つて行く事も覚へた此のミニドカセンターの監督官は夕方になると事務所からグレイヘーの婦人がホームへ帰つて行くのを見るが朝になると同じ婦人が録の黒髪で帰ると来ると話して居た

と来ると話して居た